

あまみやけい

筒部の外側より、おうとつ1組のダイスのある圧着工具で締めつけ、筒部の軸心に対して片面の一部をくぼませて、電線を筒部で締めつけるようにして電線と端子を圧着する。

すなわち電気的な接続をさせるとともに機械的にも固着させる。この端子の使用は軟銅電線に限定されている。硬銅より電線・硬アルミより電線・鋼心アルミより電線には、圧縮端子が用いられる。圧着工具は電線断面積の小さなもの用の圧着端子に対しては手動式、中位なものには手動油圧式、大きいものには足踏油圧式や電動油圧式のものを使用する。なお圧着作業時間の短縮をはかった圧縮空気式のものもある。(芳賀兵吉)

あまみやけいじろう 雨宮敬次郎 弘化3・9・5甲斐国(山梨県)東山梨郡牛奥村の名主惣右衛門の子として生まれ、13才より学問をやめ、繭・生糸・蚕種の仲買を始め、明治5年横浜港に出て両替と洋銀相場を商売とし、巨利を博した。

それより甲武鉄道の敷設に成功したのを手始めに、北海道炭鉱鉄道・東京市街鉄道・大日本軌道の創設に力を尽くし、広島鉄道・浜松鉄道・信達鉄道等の各社長となるなど、私鉄界の王者となり、また鑄鉄事業や桂川水力電気を興すなど、実業界に雄飛して甲州財閥の巨頭となり、[天下の雨敵]の俗称をもって広く知られた。



明治18年より信州軽井沢を開墾して、都人士の別荘地に開発した功績は大きく、今なお雨宮山の遺称が存している。鉄道国有論を卒先して唱え、その実施に努めたことも特筆すべき事績であろう。

晩年肺結核のため神奈川県片瀬の別邸に療養、のち静岡県熱海別荘に移ったが、明治44・1・20病没、軽井沢町雨宮山の中腹に埋葬された。(篠崎四郎)

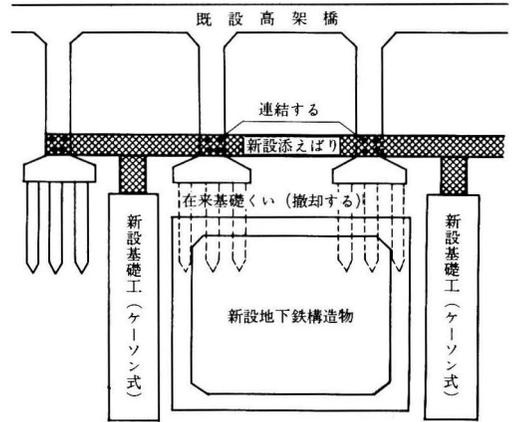
アンダー・ピンニング (英) under pinning 既設構造物の基礎に加わっている荷重を、新たに構築された基礎に受け替えさせる工法をいう。

アンダー・ピンニングには、個々の場合に依じていろいろな方法がある。図-1は在来の基礎くいの支持力が不十分となった場合に新しい基礎くいを施工して、既設橋脚の荷重をこれに受け替えた例である。図-2は、既設の高架橋の下を、新しい地下鉄の構造物が横断するために、在来の基礎くいを取り除かなければならなくなって、新しい基礎工を施工して、これに既設の高架橋の荷重を受け替えた例である。その他都市計画で既設の建物を移動させたり、河川改修のときに既設の橋りょうをこう(扛)上したことによって在来の基礎くいの支持力が不足してきて、そのため新しい基礎くいを施工して、これに構造物の荷重を受け替えさせた例などもある。

アンダー・ピンニングを実施する場合には、既設構造物の機

能を中断せず、しかもこれにならぬの損傷を与えずに荷重の受け替えを行なわなければならないので、まず十分にその構造物と周辺の地質とを事前に調査し、必要があればその構造物を補強したのち、これを仮受けしておいて新しい基礎工を施工し、新しい基礎工に構造物の荷重を受け替えさせるのが普通である。

図-2 既設高架橋の荷重の受け替え



新しい基礎工に構造物の荷重を受け替えさせるときに、その荷重によって基礎工が沈下して、構造物に悪影響が生じないように、あらかじめ新しい基礎工に所定の荷重を別の方法で加え、正常な沈下とひずみを生じさせておいて、その状態で構造物の荷重を受け替えさせると、よい結果が得られる。

参考文献 石田一郎著 アンダー・ピンニング工法。E. A. Prentis & L. White; Under Pinning 1950. L. E. Hunter; Under Pinning and Strengthening of Structures 1952. 藤井松太郎著 大阪駅の沈下及びこれに伴う被害に関する研究並びにその対策(1957)。(菅原 操)

あんないちずばん 案内地図板 外国人観光旅客が、わが国内を観光旅行する際、観光対象や観光旅行に必要な事柄などを案内する地図を主体とした標識。

欧米人など、ほとんどの外国人にとって、わが国の漢字や、カナなどの文字は難解で判読しがたく、一方、日本人の外国語学力や会話能力が乏しく、言語障壁の強いことが、わが国を訪れる外国人観光旅行者に多大の不便を与えており、国際観光振興上からみて大きな障害となっている。

そのため国は通案内業の試験を行ない、登録をすることによって、ガイドの確保に努めているが、いまだ十分とはいいがたく、外国人観光旅行者の本邦内の観光旅行を便宜快適ならしめるため、国際観光地および国際観光ルート上において、外客が多数立ち寄る地点を選定し、昭和38年度から地方公共団体に国庫補助金を交付して、案内地図板の整備を助成している。

(林 幸二郎)

図-1 橋脚基礎くいの荷重の受け替え

